

福島県岳温泉大和溜池の ウカミカマゴケについて

星 一 彰
(福島県自然保護協会)

福島県の岳温泉は、安達太良山の東山麓に連なる丘陵地帯にあり、古くから湯治場として長期滞在型の利用が多い場所であった。現在は、福島県内の著名な観光地となっている。

岳温泉の廃湯などが流れ込んでいる大和溜池は、現在、農業用溜池として利用されているが、観光地に隣接するため、将来は水辺環境空間利用地として注目され得る場所となっている。

溜池空間の中で優占群落を形成しているウカミカマゴケについて知見を得たので報告する。

福島県内のウカミカマゴケについては、裏磐梯の五色

沼湖沼群で、水底に土饅頭のように盛りあがって美しい自然景観を形成していることでよく知られている。本溜池の場合は、満水時にはヨシ群落などが目立っており、観察することができない(図1)が、減水時になると目立ってくる(図2および図3)。岸辺と水底のほぼ全面をカバーしていることが明らかである。

実験室(福島県立保原高校)で、水道水(地下水利用)のみで生育させて見ると(室温、窓辺にバット放置)、水中葉(図4、マット状の中にセスジユスリカが多く見られる)がしだいに變形し、地上葉に変化する様子が確認できる。

このようにウカミカマゴケは、水中や湿地に生育可能な植物のため、水辺の望ましい環境空間を形成する素材となり得ることが明らかである。本溜池の継続的な調査研究が望まれる。

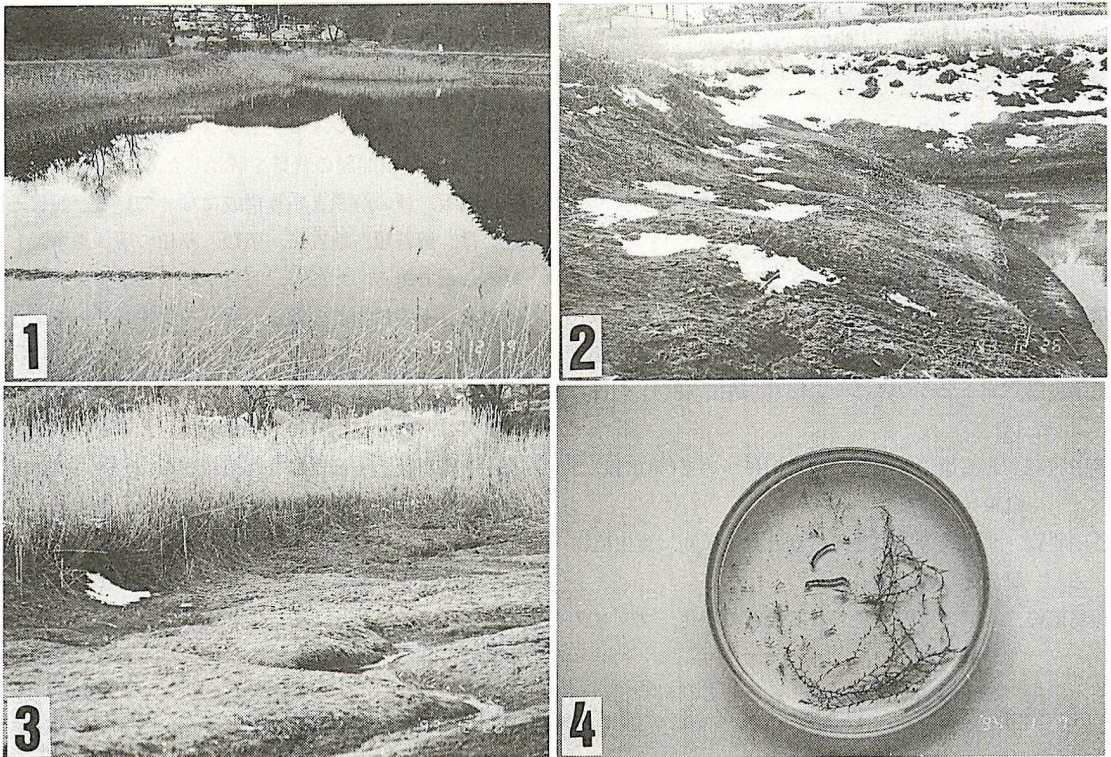


図1～4 1. 大和溜池(満水時), 2・3. 大和溜池(減水時), 4. ウカミカマゴケ(水中葉)。セスジユスリカがついていた。